

3

重要な症状の見方

呼吸が苦しそう

小児の救急疾患では、**呼吸困難を呈する病気が最も頻度が高い**ので、呼吸困難が見られたら、すぐに受診する必要があります。

呼吸器疾患以外にも、心筋炎などの心臓の病気も心不全の症状として呼吸困難を来すので、呼吸困難の症状に気づくことは非常に大切です。

次の場合はすぐに受診して下さい

1. 呼吸が止まっている

マウス・ツー・マウス呼吸による蘇生を行う。

ただし、3ヵ月以下の乳児では、正常でも周期性呼吸（6秒以下の呼吸停止でチアノーゼは見られない）が見られるが、心配ない。

2. 呼吸困難

年長児では、多呼吸、肩呼吸、起坐呼吸、陥凹呼吸、鼻翼呼吸、チアノーゼが見られ、自覚症状として、息苦しい、腹痛、頭痛、気分が悪い、などと訴える。

呼吸困難の症状

- 多呼吸…呼吸数が多くなる。

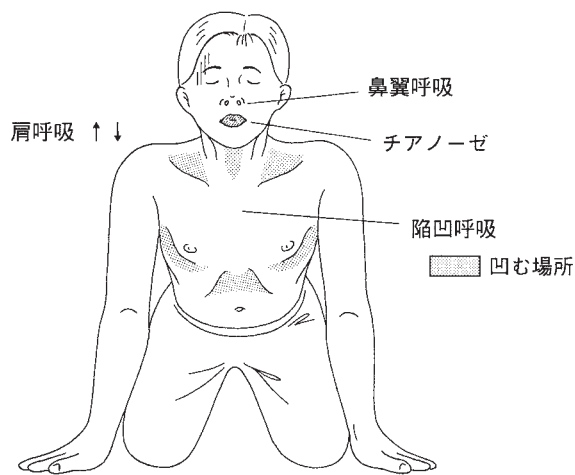
乳児…60回/分

幼児…40回/分

小学生…30回/分

} 以上は要注意

- 肩呼吸…肩を上下させて呼吸する。
- 起坐呼吸…苦しくて寝ていられず、座って呼吸する。
- 陥凹呼吸…肋骨の上や肋骨の間、肋骨の下が凹む呼吸。
- 鼻翼呼吸…鼻翼をピクピクさせて呼吸する。
- チアノーゼ…唇が紫色になる。
- 喘鳴…苦しそうにゼイゼイする。



【起坐呼吸】

●乳幼児の場合

多呼吸、鼻翼呼吸、肩呼吸、陥凹呼吸、喘鳴、チアノーゼ、呻吟（苦しうにうなる）、ぐったりしている、意識の低下、不機嫌、寝つきが悪く、たびたび眼をさます、**哺乳力の低下**。

乳幼児は、自分では息苦しいと訴えられないため、周囲が呼吸困難の症状に早く気づいて受診する必要（小児の救急では頻度が多く、重要）があるので、呼吸困難の見方に習熟して下さい。

*呼吸困難の程度は食欲にも反映しますので、例えば、喘息発作時にふだん大好きなジュースを与えても、1口か2口しか飲めない時は、重い呼吸困難と判断します。**食欲低下は呼吸困難の判断に非常に役立ちます。**

●原因疾患

- 乳幼児…気道異物、クループ、百日咳、先天性心疾患、細気管支炎、気管支喘息、肺炎、横隔膜ヘルニア
- 年長児…気管支喘息、肺炎、気胸、過換気症候群

意識障害

いろいろな程度があり、重症になると痛みを与えても反応しません。中等度の場合、呼びかけをくり返すと、やっと眼をあける状態なので、異常に気づきますが、軽い場合は、目覚めていても自分の名前が言えなかったり、赤ちゃんの場合、母親と視線が合わない、あやしても笑わないなど、注意しないと見逃す心配があります。見逃しを防ぐには「何かいつもと違う」という、**母親の勤も大切です。**

また、特に呼吸が非常にゆっくりして弱々しい場合、マウス・ツー・マウス呼吸による人工呼吸が必要となることがあります。なお、脈が触れない場合には胸骨圧迫の蘇生術が必要となります。

意識レベル分類法

意識レベルというのは、患者の意識状態を表すものです。Ⅰ－Ⅰが最も軽度の意識障害、Ⅲ－Ⅲが最も重度の意識障害です。

軽度の意識障害でも、すぐに受診して下さい。

【年長児】（太田の分類）

意識レベル	分類	刺激に対する反応
覚醒している	Ⅰ－Ⅰ	だいたい意識鮮明だが、今ひとつはっきりしない
	Ⅰ－Ⅱ	見当識障害がある
	Ⅰ－Ⅲ	自分の名前、生年月日が言えない
刺激で覚醒する	Ⅱ－Ⅰ	合目的な運動をする（例えば、右手を握れ、放せ） 言葉は出るが、間違いが多い
	Ⅱ－Ⅱ	簡単な命令に応じる（例えば、握手）
	Ⅱ－Ⅲ	呼びかけを繰り返すと、辛うじて開眼する
刺激で覚醒しない	Ⅲ－Ⅰ	痛み刺激に対し、払いのけるような動作をする
	Ⅲ－Ⅱ	痛み刺激で、少し手足を動かしたり、顔をしかめる
	Ⅲ－Ⅲ	痛み刺激に反応しない

【乳 児】（坂本の分類）

意識レベル	分類	刺激に対する反応
覚醒している	I-1	あやすと笑う。ただし不十分で、声を出して笑わない
	I-2	あやしても笑わないが、視線は合う
	I-3	母親と視線が合わない
刺激で覚醒する	II-1	飲み物を見せると飲もうとする。或いは、乳首を見せると欲しがって吸う
	II-2	呼びかけると開眼して、目を向ける
	III-3	呼びかけを繰り返すと、辛うじて開眼する
刺激で覚醒しない	III-1	痛み刺激に対し、払いのけるような動作をする
	III-2	痛み刺激で、少し手足を動かしたり、顔をしかめる
	III-3	痛み刺激に反応しない

低血糖による代謝性脳症やインフルエンザなどのウイルス性脳炎などでは、静かな意識障害ではなく、初期症状として**う言や幻覚、異常行動**などの賑やかな意識の変容が見られることがあるので注意。

意識障害が見られたら

重要な症状の見方の項（44 頁）参照。

1. 救急車を呼ぶ
2. 呼吸がないか、弱々しい場合→人工呼吸を行う
3. 脈がふれない時→胸骨圧迫の蘇生術を行う

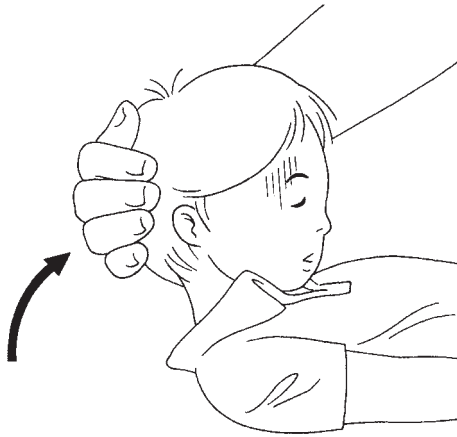
●意識障害を来す原因疾患

- 中枢神経…脳炎、髄膜炎、脳内出血、脳梗塞、頭部外傷
- 代謝疾患…糖尿病、低血糖、肝機能異常、腎機能異常
- 中 毒…薬物、化学物質
- そ の 他…てんかん、日射病、低体温、発作性頻拍症
アダムス・ストークス症候群、など

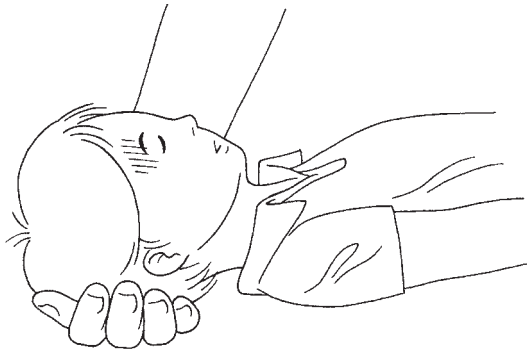
項部強直

子供を仰向けに寝かせ、頭を下から持ち上げてみましょう。この時、枕は使いません。正常であれば、下あごが胸に接触するまで曲げられます。しかし、曲げられない場合は髄膜炎（17頁参照）が疑われます。髄膜炎は発熱、頭痛、嘔吐など、風邪に似た症状から始まり、時には命に関わることもある病気です。項部強直が見られる場合はすぐに受診して下さい。

【正常時】



【項部強直状態】



脱水症状

小児（特に2才以下）は成人に比べ、体重あたり約3倍の水分を必要とします。そのため、嘔吐、下痢などが原因で脱水症状を起こしやすくなります。**特に冬場は下痢症にかかる子供が多く、短時間で脱水症状を起こしがちです。**脱水症状を来す原因疾患をよくふまえて、水分の補給に努めて下さい。

次の場合はすぐに受診して下さい

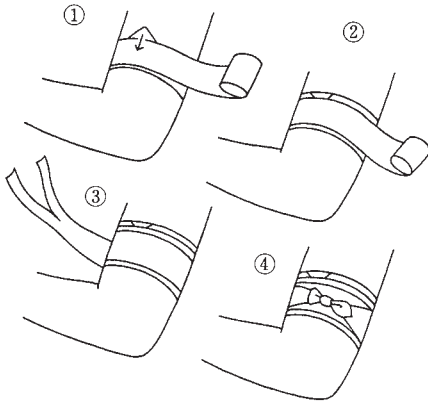
1. 口唇が乾く
2. 泣いても涙が出ない
3. 眠が落ちくぼんでくる
4. 尿が8時間以上出ない
5. 腹部の皮膚に緊張がなく、シワがよっている
6. ぐったりして眠りがち等（低張性脱水）
7. うとうとしていても、刺激に過敏となり、不穏・興奮状態となり、ひどくなるとけいれんを起こす。（高張性脱水）

●脱水症状を来す原因疾患

1. 嘔吐や下痢による胃腸疾患
例：乳児下痢症、感染症胃腸炎
2. 呼吸器疾患
例：細気管支炎、クループ、肺炎、気管支喘息
*呼吸困難で水分が取れないため。
3. 熱性疾患
例：単純ヘルペス口内炎、インフルエンザ
*乳幼児は熱や痛みで経口摂取が不十分となるため。
4. 熱中症
5. アセトン血性嘔吐症

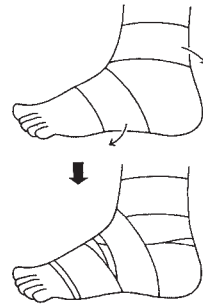
参考資料 包帯の巻き方

包帯の巻きはじめと巻き終わり



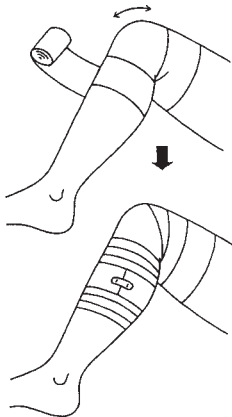
巻きはじめは、先端の一部を次のひと巻きではさむようにすると巻きやすい。巻き終わりは、ひもにして結ぶ。

8の字巻き



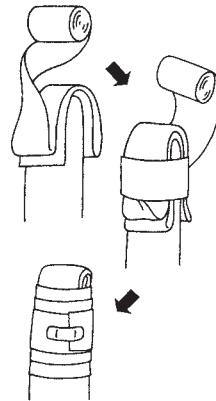
関節や指など、巻きにくいところに巻く方法。関節の中心部から上下に、8の字を描きながら巻く。

ひじ・ひざ



患部を巻いてから上下に巻く。

指先



指全体を縦におおってから、横に巻く。